

2月5日 第四回 集合研修

内容:『認知症』

- ・認知症(アルツハイマー型)については、学生時代に学んできたけど、今回は知らないことや、知っていたけど深く理解できていなかったことを分かりやすく説明してもらえ、楽しく学びました。
- ・冒頭に出てきた「なんのために寄り添うのか」心に寄り添い、心を理解することが大切!
- ・一見、当たり前のことを果たして自分は出来ているのか?と問われたら考えさせられる思いばかりでした。
- ・見当識障害で時間が分からなくなるということは、思っている以上に不安なことだと聞いて、仕事での自分の対応について反省点がたくさんあるなど理解することができました。時間の概念がない人にも理解できるような答え方をすることの大切さが、相手を思い心に寄り添うことなのかな?と感じました。
- ・今回学んだことは、認知症の人以外とコミュニケーションを取る上でも役立つ知識がたくさん盛り込まれていた気がします。とても有意義な時間をありがとうございました。
- ・20年以上認知症界隈に居るのに、認知症の知識を入れようとしなかった。理由は、仕事だからだと思う。仕事はとにかくこなす事…だったからだと思う。寧ろ積極的に知りたく無かった。でもそんな私も年を経て、今は知りたいのです。その知識、技術でみんなを助けたいのです。
- ・今回の講義で印象深かったのは、
 - 相手をよく見る事:
見る→「認知症」と「人」2つの視点で考える事。のところででしょうか。確かに、認知症の人の行動は理解していたが、心を理解することは無かったかな…
 - 専門職としての関わり!
“ひと”を理解する視点がだいじ←今ならうっすら分かる
- ・今回の講義を受けながら、頭に浮かんでくるのは、父と母でした。実家で2人で暮らしていますが、12年前からアルツハイマー型認知症と診断され、徐々に進行していますが、なんとかかんとかやっています。
- ・今回の講義は、介護者が専門職としての話でしたが、専門職でないけれど、介護をしている人達にも救いはあるのか、という事も考えをお聞きしたいです。
- ・とても分かりやすく、認知症の方からの目線だったり、症状によって何かしらの(事例では、トイレで食器を洗っていました)状況になった時に、介護のプロとして、最初の声掛けや職員としての対応を学びました。
- ・講義の内容は、盛りだくさんでしたが!その中でも私の注目したところは「大脳の働き」についてです!脳の絵を使い認知症の方が、目でみて~行動を起こすまでを説明して下さいました。頭の中の思考がどうなって行動がこうなるのかが、凄く分かりやすく有り難かったです!!
- ・認知症の症状があり、分からなくなっていることに自分で気づいている方が、その事で苦しみ、悩んで、涙される、、、私の職員時代にも、沢山いらっしゃいました。
- ・一緒に過ごす周りの人や環境が、どれだけ大切か…。そのことについて、改めて考える機会になりました。認知症ケアの大切な視点2つ!
 - 出来ること探し!分かる環境づくり
 - 相手を良く見ること!
- 忘れずに居たいと思います。
- ・どう関わることが、本人にとって過ごしやすい日常になるのか…。認知症の特徴を理解して(今回は、アルツハイ

マー型) 状況を観察し、本人を見守り、適切な対応をすることで、本当の想いに気づく。そうする事で『しっかりと心に寄り添う関わり』が出来るのではないかと、思いました。

- ・お忙しい中、資料づくりなど色々、準備して頂いて、ありがとうございました!
- ・私の基本的な考え方に「認知症あるからといって関わりに変化はない」と思っていることがある。有無に関わらず、その人の尊厳を守り、ニーズを捉えサービスを提供することが介護支援者の役割だと感じている。今回の講座を受けて、その認識が間違っていないと感じた。
- ・自分の認識に加えて、認知症を正しく知ること、客観的に「今本人に何が起きているのか」を見れるのだと感じた。その視点がケアの奥深さにつながると感じた。